

<活動の様子>

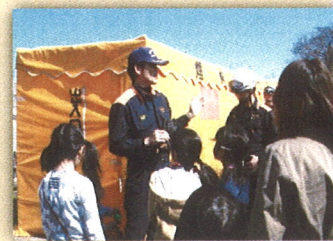


講演会・ワークショップ



支えあいの種をまこう!

種まき祭



事業名 災害に関する講演会やワークショップ、防災交流イベント等開催事業

<目的>

2011年3月に発生した東日本大震災、昨年4月に発生した熊本・大分地震など、近年、日本各地で被害の大小・種別を問わず災害が起こっている。本事業では、災害によって「奪われる命」と「生まれる苦しみ」を減らすための実効性のある取り組みを、地域に根ざし、市民と共に進めていくための足がかりとして実施する。

<事業内容>

①災害に関する講演会・ワークショップの開催（全4回）

被災当事者や災害に関する研究者、災害救援・防災活動に取り組む専門家を招き、講演会を開催。

第1回：「被災者になるということ」 東日本大震災被災者：宮城県気仙沼市より

第2回：「私たちの地域で起きた災害」 愛媛の災害史の研究者：愛媛県歴史文化博物館 学芸員

第3回：「命を守り、繋ぐために」 熊本・大分地震被災者：阿蘇市なみのやすらぎ交流館 館長

第4回：「発災後のリアル」 東日本大震災被災者、自主防災組織、建築士、小学校教諭

②防災交流イベントの開催

「ささえあいの種をまこう！ 種まき祭」の開催。

炊き出し体験、震災当事者による語り部、防災〇×クイズ、煙室体験、写真パネル展示などの実施。

<市民の参画や他団体との連携>

各講演会での新聞告知記事、市内の公民館・児童クラブ等へチラシ配布を行なう。

イベントの広報に関しては、コープえひめ、石井地区まちづくり協議会、石井地区内の保育所等に協力をいただいた。

<市民に対するPR>

南海トラフ地震が今後10年以内に20-30%、30年以内に70%、50年以内には90%かそれ以上の確率で起こると言われています。過去の震災から得た教訓を活かし、実践していくことで、一人でも救われる命、守られる暮らしがあります。皆さんの日々の中で少しずつ、防災の意識を取り入れていただけたら幸いです。